



SANSHIN GROUP
Monthly Report on the ESG
Nov.2022

INDEX

1. TOP MESSAGE
2. グループ社員による今月のつぶやき
3. ESG Report（品質）
4. ESG Report（環境）
5. ESG Report（地域貢献とワーク・ライフ・バランス）
6. サンシングループの経営理念とCSR
7. 経営戦略体系と管理会計のかかわり
8. サンシングループの社会的責任
9. サンシングループの企業行動基準
10. サンシングループのマネジメント・コントロール・システムズ
11. 未来形から問題を解決するソウレンハウ

TOP MESSAGE

昨今、投資家向けに、サステナブル企業に投資できるESGファンドが増えている。ESGやSDGsに積極的に取り組む企業への注目と評価が益々高まっていることの表れといえる。また、金融機関もサステナブル関連融資に力を入れている。金融機関が融資先のサステナブル目標設定を支援し、その達成状況に応じて金利を優遇する商品などが登場している。環境省によると、2022年のサステナブル関連融資件数は既に前年比2倍となっているという。この流れが進めば、ESGを軽視する企業は資金調達に苦勞し、ビジネスチャンスを逃すということにもなりかねない。事業拡大・資金調達といった視点から見てもESG経営への取組は非常に重要である。

サンシン電気株式会社
執行役員 川口 あすみ

グループ社員による今月のつぶやき

SANSHINEast

FIFAワールドカップカタール2022が開幕致しました。連日の熱戦で寝不足の方もいるのではないのでしょうか。今大会をFIFAはカーボンニュートラルな大会にすると宣言しています。開催地をコンパクトにまとめ移動に飛行機を使用しない、開催中の電気自動車・バスの導入、スタジアム解体後の資材再利用等の対策が取られているそうです。このような地球規模のイベントでのエコな取組みにも注目しています。(Y.Y.)

SANSHIN Hong Kong

Donate surplus food for turn into meals for the needy. There are such organizations in HK providing this kinds of support. Under the plan, smart "food donation machines" and "food collection boxes" are placed in different premises, such as shopping malls, commercial buildings, housing estates or schools or and mobile apps can be used to obtain this project information. Consider whether you need it before buying ! Excessive of storage food will cause waste if the food expires. Be grateful what we have. (C.W.)

CSI

セブ交通手段が小型のマイクロバスにうまくシフトしているようです。バスターミナルも各所に出来ました。途中のバス停はあるのですが、乗りたい場所で乗り、降りたい場所で降りるとの事。以前と比べ渋滞が緩和されてますが、もう一歩なんだけどな。と思う次第です。(K.S.)

SANSHINWest

高齢化が進んでいることによって増えているのが使用済紙おむつのゴミです。現在ほとんどが焼却されていますが、使用済紙おむつリサイクルの実験が始まっています。その結果、温室効果ガスの排出量が87%減少などの効果がわかっています。おむつリサイクルと聞いて少し抵抗がありますが、将来的には当たり前になるかもしれません。(Y.S.)

SHINKOWA

季節も秋から冬になりつつあります、朝日工場の周辺は落花生の産地で収穫が終わり、落花生を乾燥させるブルーシートや藁の傘でカバーしたボッチが見られます。今年は気象の影響は特になかったため、たくさんのボッチが見られます。(M.N.)

SC2

【クイズ・電磁波が溜まりやすい場所は？】 電気がなければ暮らせない世の中、電磁波曝露も当たり前起きています。では、人体で一番電磁波が溜まり&ダメージを受けやすい場所はどこでしょう？答えは「脳」です。パソコンに触れている指先よりも脳に電磁波が溜まります。スマホで通話する時はハンズフリーか、有線のイヤホンを使うといいですよ。(M.I.)

ESG Report (品質)

サンシングループの品質方針

サンシングループは、品質マネジメント・システムの効率的な運用により、お客様の満足にかなう企業活動を行い、社会へ貢献していくために、以下の品質方針を策定しています。

1. 企業活動において、いかなる場合も品質マネジメント・システムを遵守し、お客様に信頼される品質の提供に努めて参ります。
2. 企業活動に係る法規制およびその他の要求事項に関して、コンプライアンスの遵守を通して品質の向上に努めて参ります。
3. 品質マネジメント・システムは、定期的な内部監査及びマネジメント・レビューを行い、実態業務に沿った具体的な是正と改善を図って参ります。

品質への取り組み

要因分析

<品質管理の基本である5M>
Material (材料)、Machine (製造機械)、Method (製造方法)、
Man (担当者)、Measurement (計測)

段取り

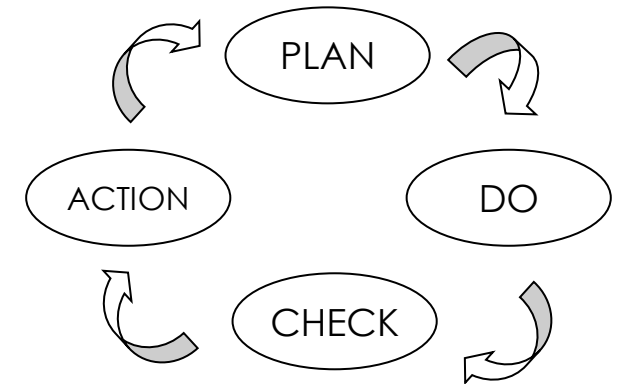
<仕事の段取り5W3H>
5W : When (いつ)、Where (どこで)、Who (だれが)、What (なにを)、Why (なぜ)
3H : How (どのように)、How much (いくら)、How many (どのくらい)

行動

<製造の基本である3現主義>
現場、現実、現物

管理

<品質管理の基本はロット管理と変更管理>



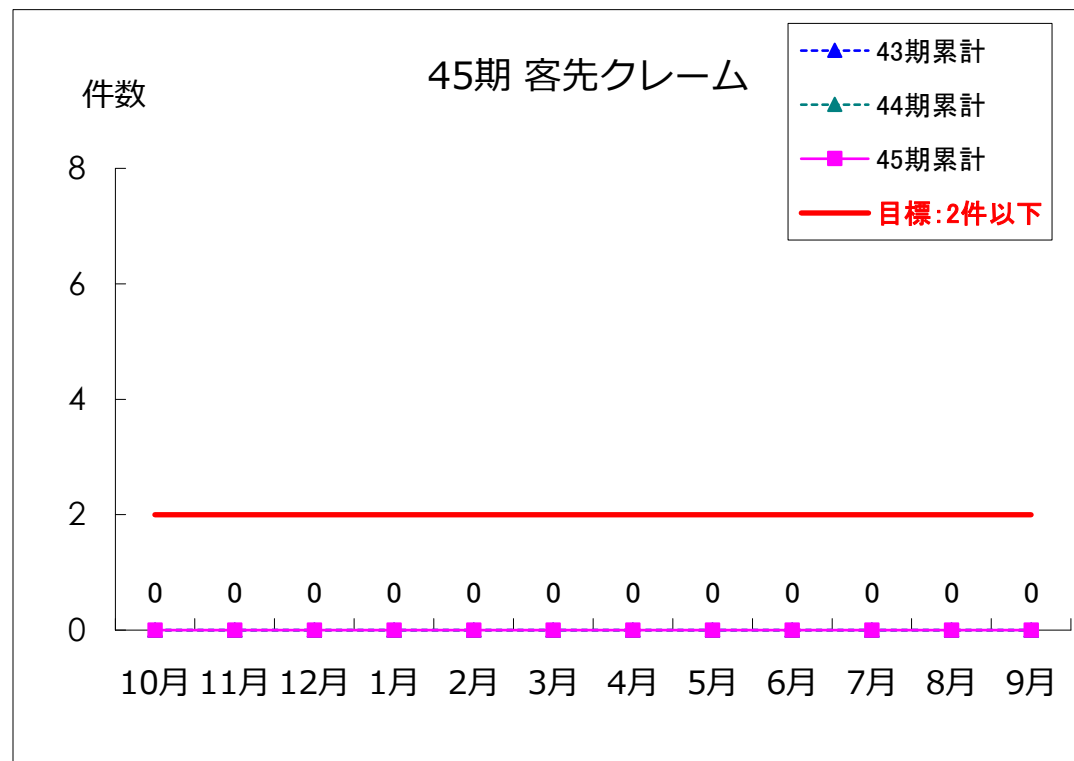
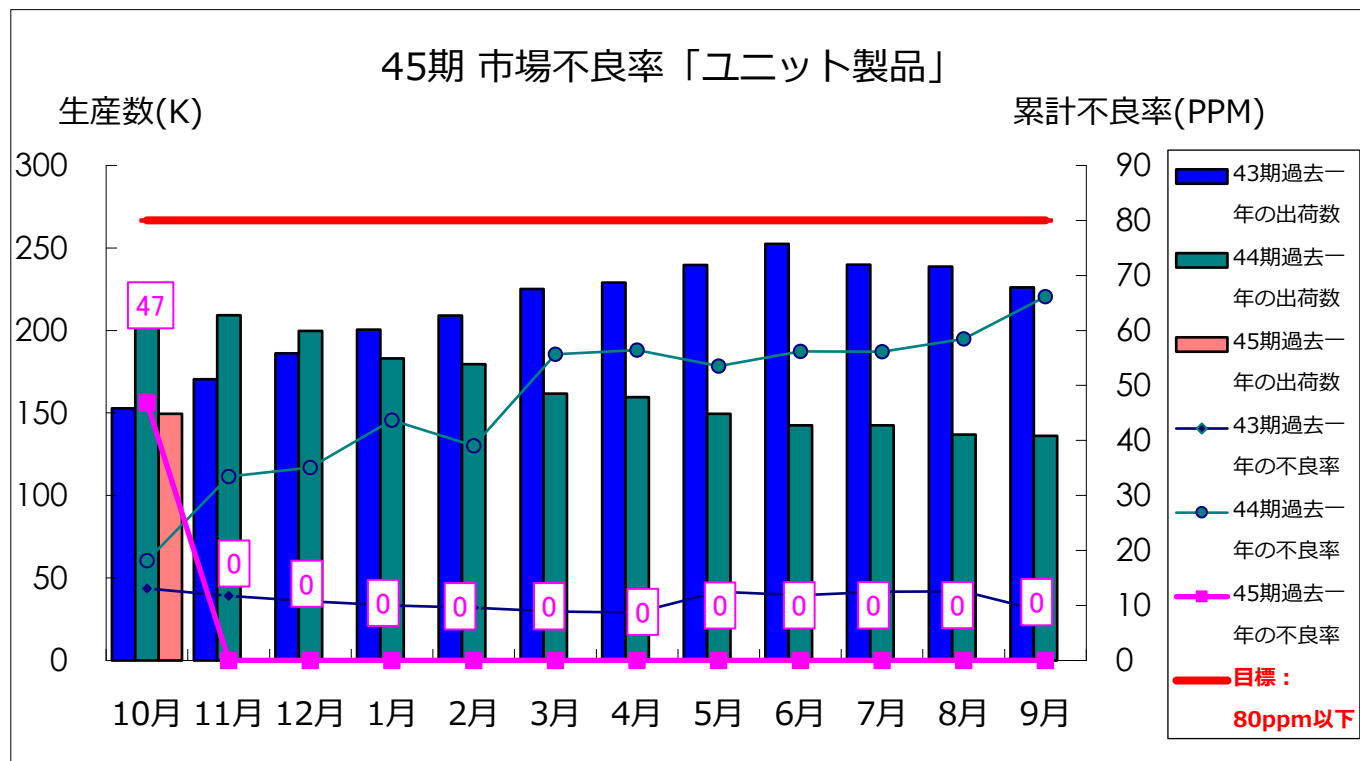
- EMS先との継続的な品質会議の実施。(1回/月)
- 定期監査の実施。(1回/1年)

* 最も大事なのが、継続させるための「**個人の意志**」である。

品質状況

納入品不良率 (目標 : 80ppm)
 45期の累計不良率(解析依頼含む) : 47ppm

客先クレーム (目標 : 2件以下) : 0 件



ESG Report (環境)

今月のTOPICS

■ 気候変動の「損失と被害」基金で合意 COP27、対策加速では前進なく閉幕

エジプト・シャルムエルシェイクで開かれていた国連気候変動枠組み条約（UNFCCC）第27回締約国会議（COP27）は予定会期を2日延長した現地時間の20日午前、気候変動により生じた途上国の「損失と被害」に対する支援基金を創設することで合意。その後この合意を盛り込んだ成果文書を採用して閉幕しました。

会議は気候変動の被害支援に特化した初の基金創設という成果を上げた一方、採択文書には温室効果ガス削減対策を加速させるための具体的な数値目標や化石燃料の廃止につながる内容は盛り込まれず、世界的に気候危機が顕在化する中で開催された会議は重い課題を積み残しています。

採択された成果文書は「シャルムエルシェイク実施計画」と題し、「科学と緊急性」「エネルギー」「緩和」「適応」「損失と被害」「気候資金」など17項目、13ページ。議長を務めたエジプトのシュクリ外相が会期延長翌日の19日に成果文書案として提示。この中に途上国が求めていた支援基金を創設する内容も含まれました。関係者によると、会期中の水面下の交渉でも対策加速のための具体策や化石燃料廃止に関する項目では各国間の意見の隔たりが大きく、会議終盤を迎えて決裂の恐れも出ていたそうです。何らかの形で成果を残したいシュクリ議長らの調整に対し、欧州主要国がまず動き、米国もこれに追随して先進国側が歩み寄る形で「損失と被害」基金創設で合意に至ったといいます。

「損失と被害」への支援基金創設は、温室効果ガスの排出がほとんどなく、気候変動による被害に対する自国責任もないのに海面上昇で国土が浸食される「小島しょ国」が約30年前に提起した長年の課題です。先進国は被害額が膨大になると予想されることから一貫して創設に反対していました。こうした長年の会議の流れに対し、この夏大洪水に見舞われ、国土の3分の1が水没したパキスタンのほか、干ばつ被害が続いたアフリカ諸国などの途上国側が会議前から基金設立を強く要求しました。今回の議長国であるエジプトがアフリカ諸国の代表として「損失と被害」を議題にするとの強い意向を示し会議冒頭に正式決定したのです。

今月のTOPICS

■ 気候変動の「損失と被害」基金で合意 COP27、対策加速では前進なく閉幕

延長会期中も徹夜に近い形で断続的に各国間の交渉が続き、最後は何とか基金創設で合意しましたが、基金拠出元など運営細則は未定、来年秋にアラブ首長国連邦（UAE）での開催が予定されているCOP28で細部について議論される見通しです。

拠出元は先進国に限定されるのか、中国のように排出が多い新興国も含まれるのかなど、今から議論紛糾の可能性のある課題が浮上しています。

採択文書にはこのほか、太陽光や風力といった再生可能エネルギーの導入を加速すべきだとの認識を共有。2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロを達成するため、30年までに年間4兆ドルを再生エネに投資する必要があるとの指摘も明記されました。

昨年のCOP26では、今世紀末の気温上昇を産業革命前比で1.5度に抑えるための努力を追求することで合意していましたが、今回会議では「1.5度目標」達成のための具体策は盛り込まれず、目標達成に向け「さらなる努力を追求する」と、「さらなる」の一言が付記される程度にとどまりました。また化石燃料の廃止に関する項目では、ロシアのウクライナ侵攻に伴うエネルギー危機も反映して、具体的な進展は見られませんでした。採択文書では「排出削減策のない石炭火力の段階的削減に努力を加速する」とCOP26の文書とほぼ同じ記述になっています。

今回のCOP27は、気候変動が原因とみられる極端な気象現象による甚大な被害が世界的に頻発して危機感が高まる中で多くの成果を残すことが期待されていました。しかし「1.5度目標」達成への道筋は見いだせず閉幕した形となりました。国連のグテーレス事務総長は会議閉幕に際し「損失と被害」基金創設での合意を評価しつつも、現在の各国の対策ではあと9年で1.5度上昇してしまうと指摘されていることを念頭に「我々の惑星はまだ緊急治療室にいる。越えてはならないレッドラインは1.5度上昇を超えてしまうことだ」と述べ、対策の加速を強く求めています。

サンシングループの環境方針

サンシングループは、環境の保全と向上に関する企業活動を重要なCSRと認識し、継続企業の責務として、将来に渡り環境の保全と向上に貢献していくために、以下の環境方針を策定しています。

1. 企業活動において、いかなる場合も環境マネジメント・マニュアルを遵守し、お客様に信頼される継続企業として、環境保全と向上に努めて参ります。
2. 「紙・ごみ・電気」の低減を定量的に徹底管理し、地球環境の汚染予防をはかって参ります。
3. 独自性のあるイノベーション活動を通して、地球環境の汚染防止をはかって参ります。
4. 「安全・安心・快適」な職場環境を追求し、すべての社員が健康的に働くことのできる環境を実現して参ります。
5. 企業活動に係る法規制およびその他の要求事項に関して、コンプライアンスの遵守を通して環境の保全と向上に努めて参ります。
6. 環境マネジメント・システムは、定期的な内部監査およびマネジメント・レビューを行い、実態業務に沿った具体的な是正と改善をはかって参ります。



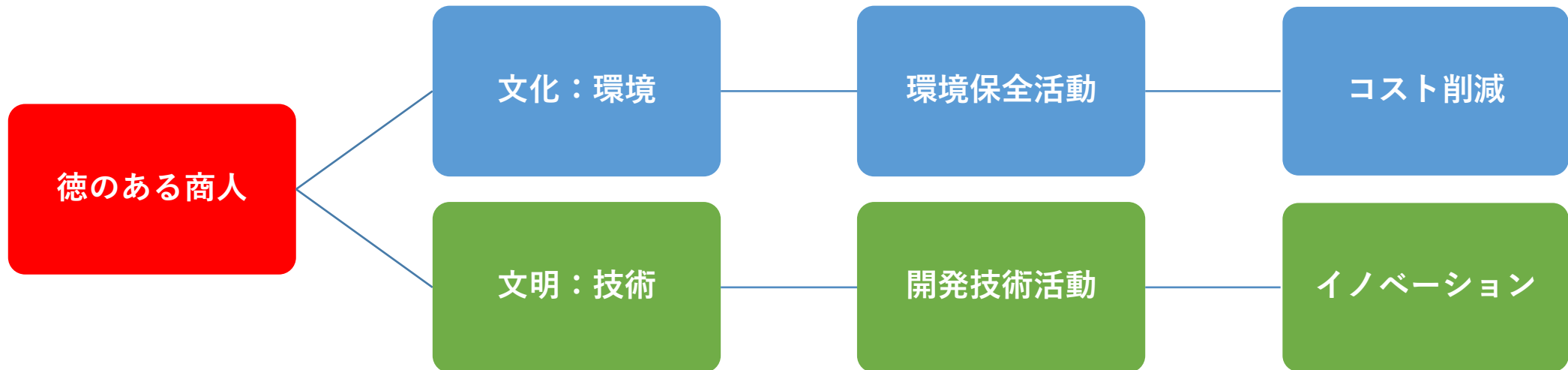
サンシングループ環境経営への歩み

1. 環境経営の基本マインド

* サンシングループ経営理念

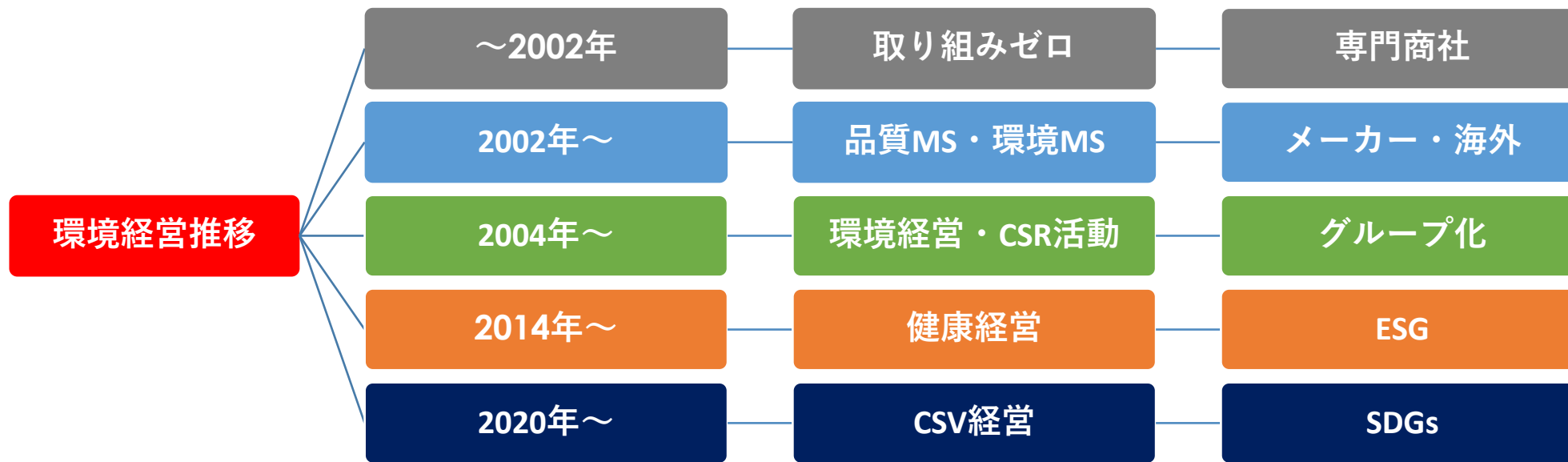
私たちは お客様を愛し お客様から愛される

徳のある商人を目指す：世界の文化・文明発展のために



2. 環境への取り組み

2002年から現在までの経緯



2. 環境への取り組み

～2002年

環境対応はコスト増の要因であり取り組む必要はないという認識。

2002年～

専門商社から海外商社，メーカーへと展開するなかで**環境MSを整備**。

2004年～

グループ企業体の発足に伴い**経営理念**を創設。 **CSRを能動的に展開**。

2014年～

健康経営を標ぼう，以後，東京都認定。

2020年～

CSV経営を宣言， **ESGとSDGs**を重視。

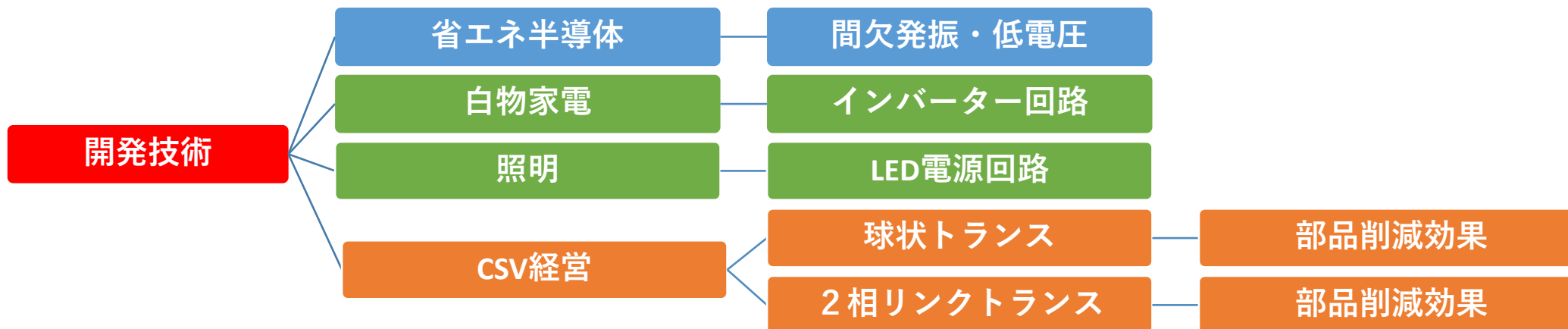
3. コスト削減実績

- **紙/ゴミ/電気**, 三種の神器, 徹底削減の継続
 - **テレワーク**による電気/交通費削減
 - 環境MS監査費用は増加（リアルコスト）
 - 環境活動時間は増加（バーチャルコスト）
 - コスト削減費用と増加費用の差額をマネジメント
- ⇒ **グループで年間約4,000万円※のコスト削減を実現！**

※2004年度対比

4. イノベーション事例

- 環境保全の開発技術ビジネス



4. イノベーション事例

省エネ半導体

専門商社として拡販

白物家電

白物家電向け**インバーター回路**の設計

照明

LED照明用の回路設計および電源製造

CSV経営

環境保全を鑑みた電子部品を**自主開発**

環境とイノベーションを結び付けた技術開発

CSV経営 モノ×コト = 価値創造

5. Scopeの対応

- Scope 1：該当なし
- Scope 2：電気排出量のみ（J/C/P合計）
『ESGレポート』掲載
- Scope 3：該当事項のみ集計
 - 4：輸送配送
 - 5：廃棄物
 - 6：出張交通費（旅費除く）
 - 7：従業員交通費

6. まとめ

- ほとんどのSME他社が取り組んでいない項目だからこそ「進取の精神」で取り組みます！
- 事業活動の中で可能な小さいことからコツコツ継続します！
- 環境保全活動はコスト削減とイノベーションのきっかけになります！
- サンシングループはこれからもサステイナブル企業としてサステイナブルな社会のために環境保全活動に取り組みます！

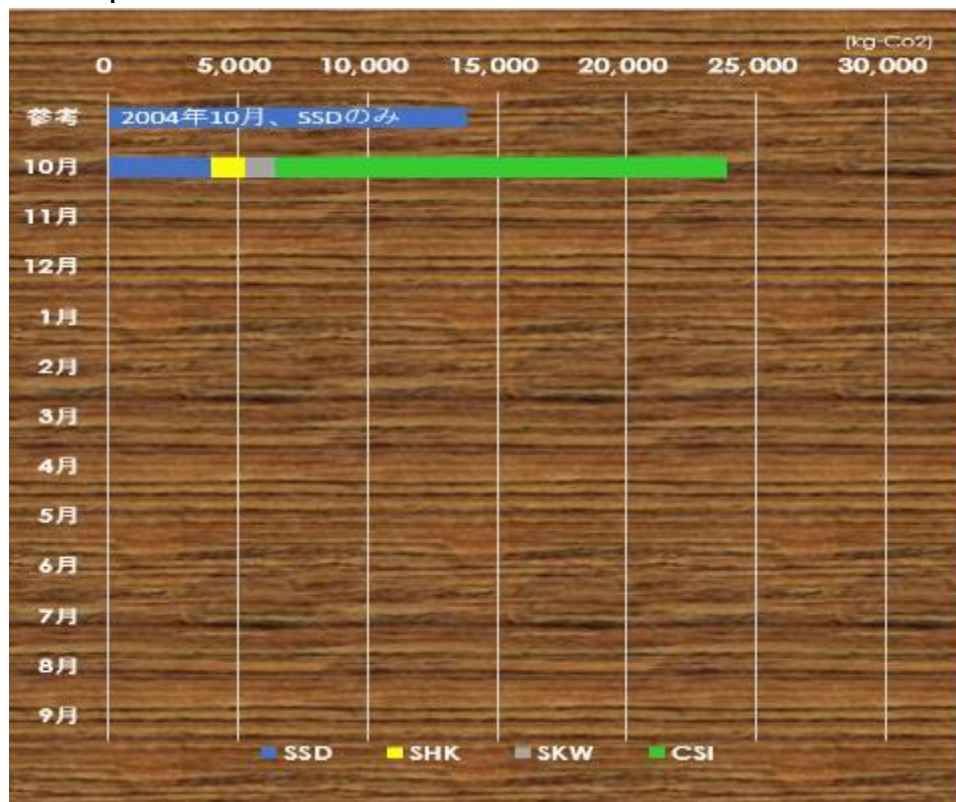


活動報告

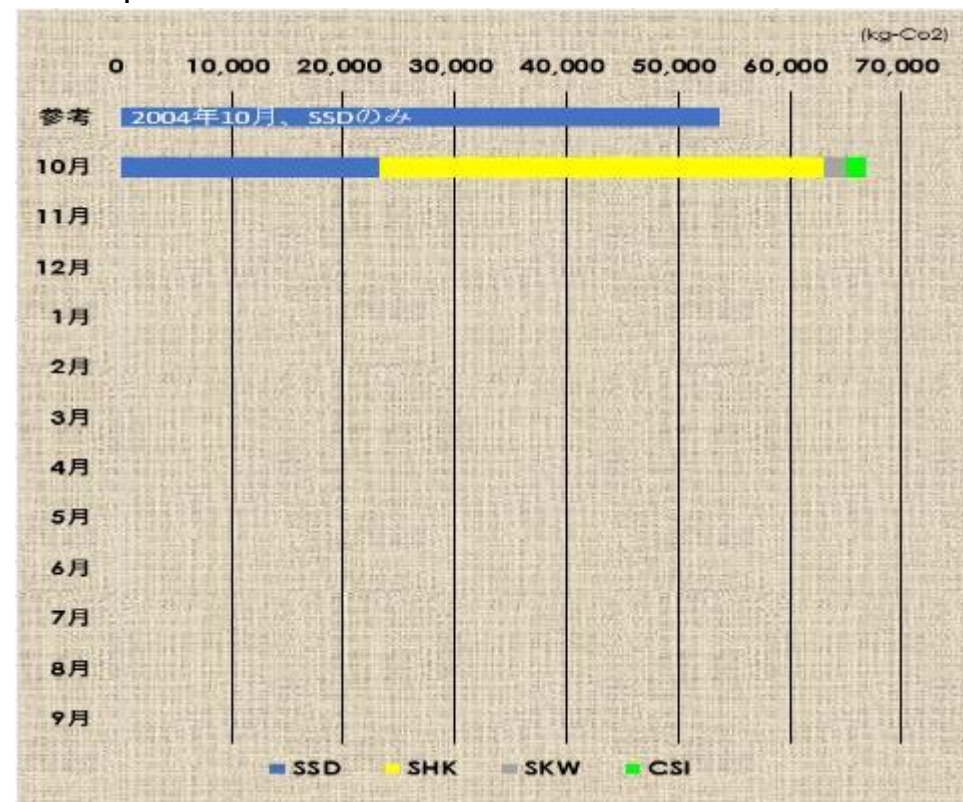
- ① サプライチェーン排出量
- ② 廃棄物排出量
- ③ 電力使用量

SSGサプライチェーン排出量

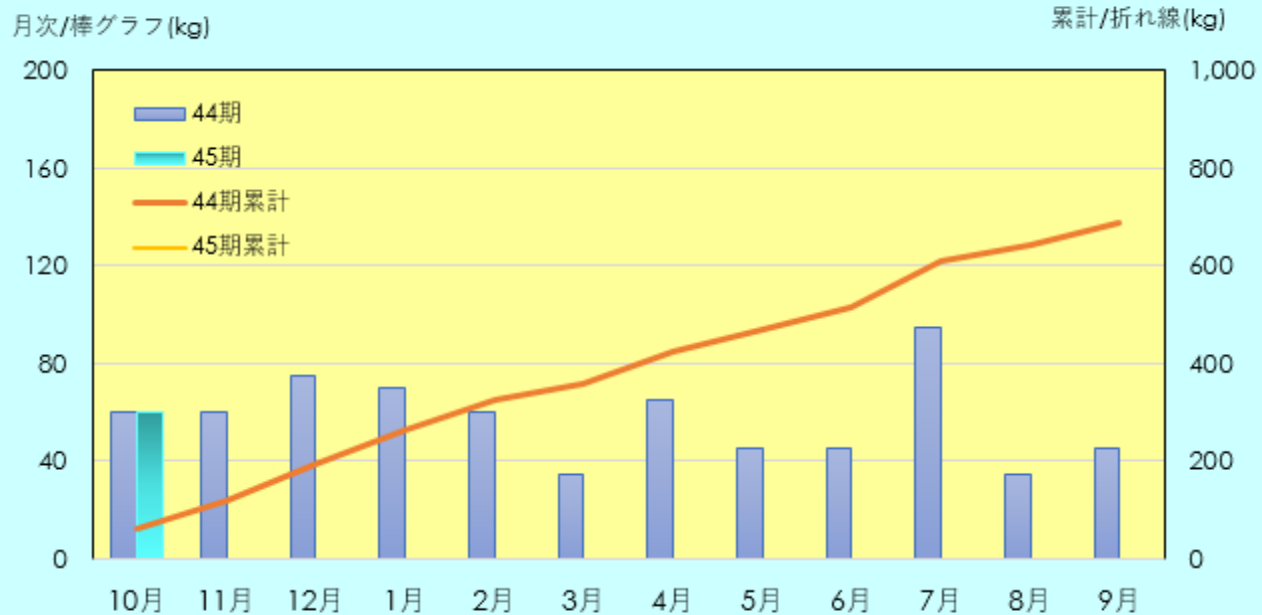
- Scope 1：該当なし
- Scope 2（他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出）



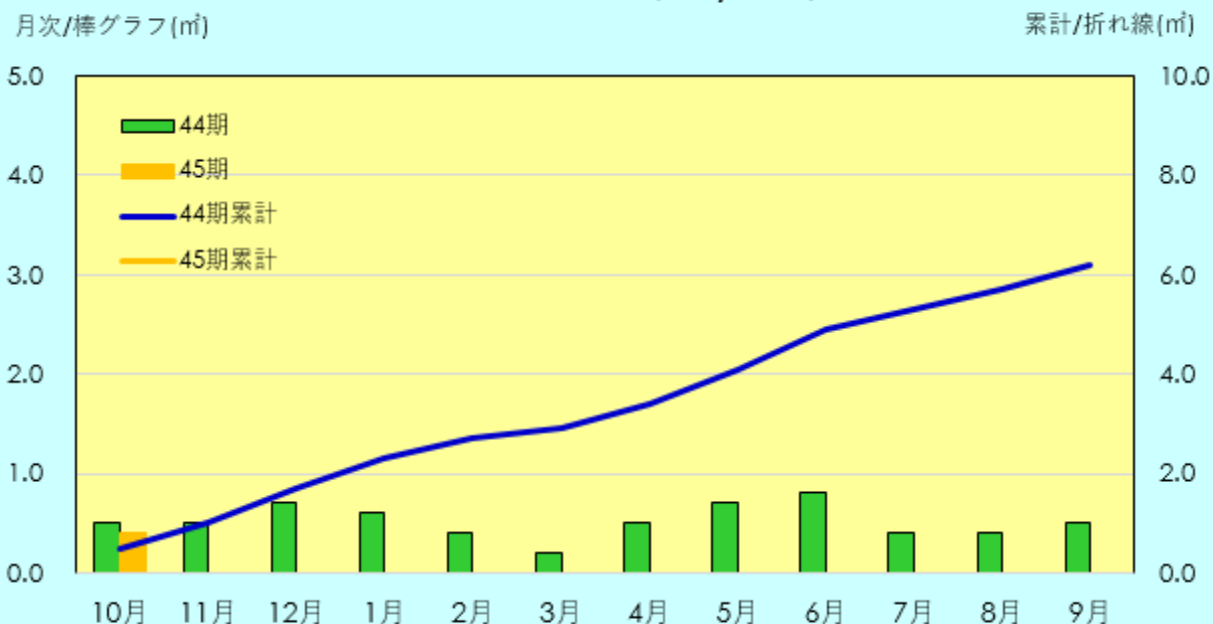
- Scope 3（事業者の活動に関連する他社の排出）



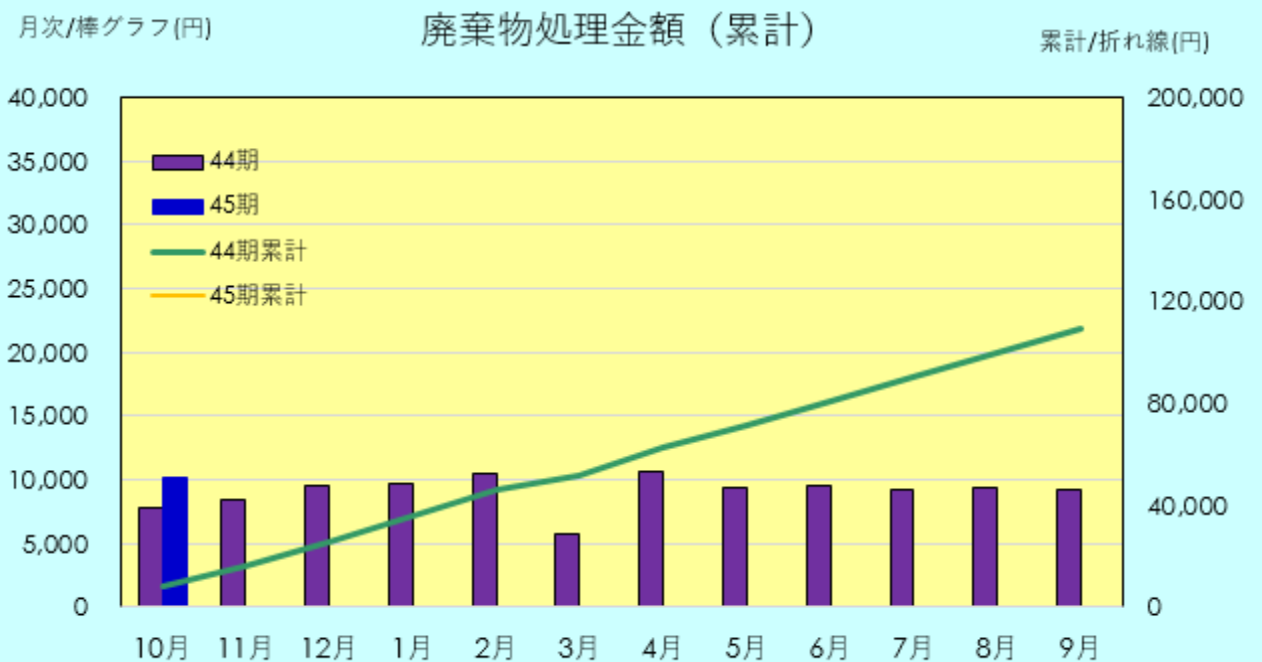
一般廃棄物 (SSD/本社)



一般産業廃棄物 (SSD/本社)



廃棄物処理金額 (累計)



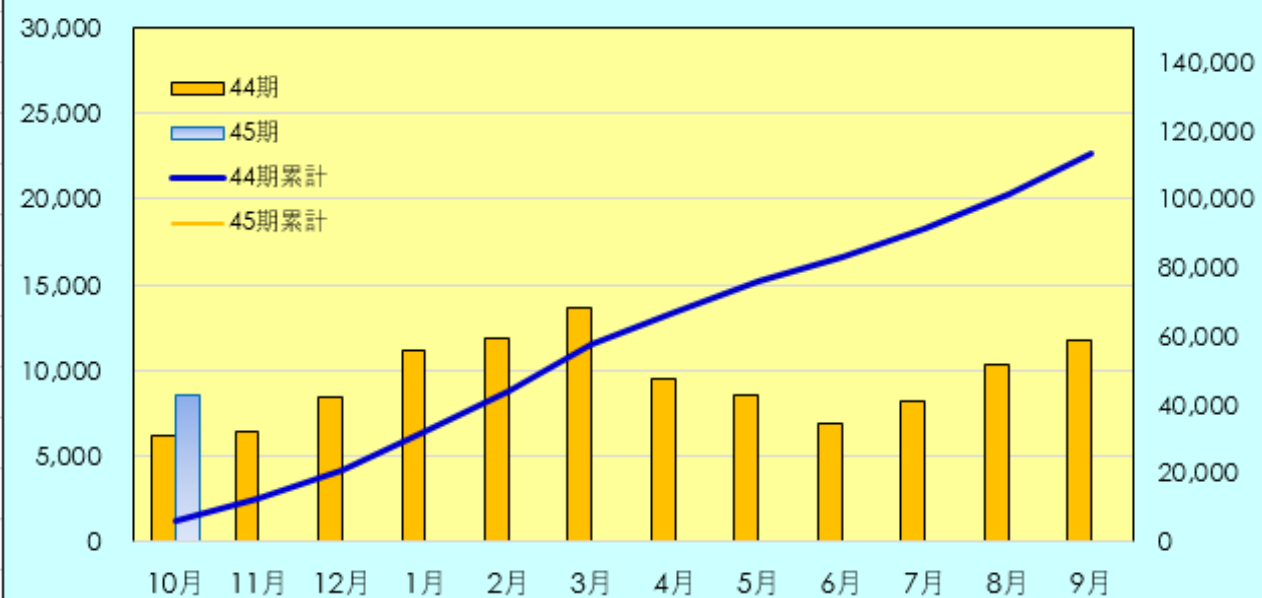
45期廃棄物処理金額



電力使用量 (SSD/本社)

月次/棒グラフ(kwh)

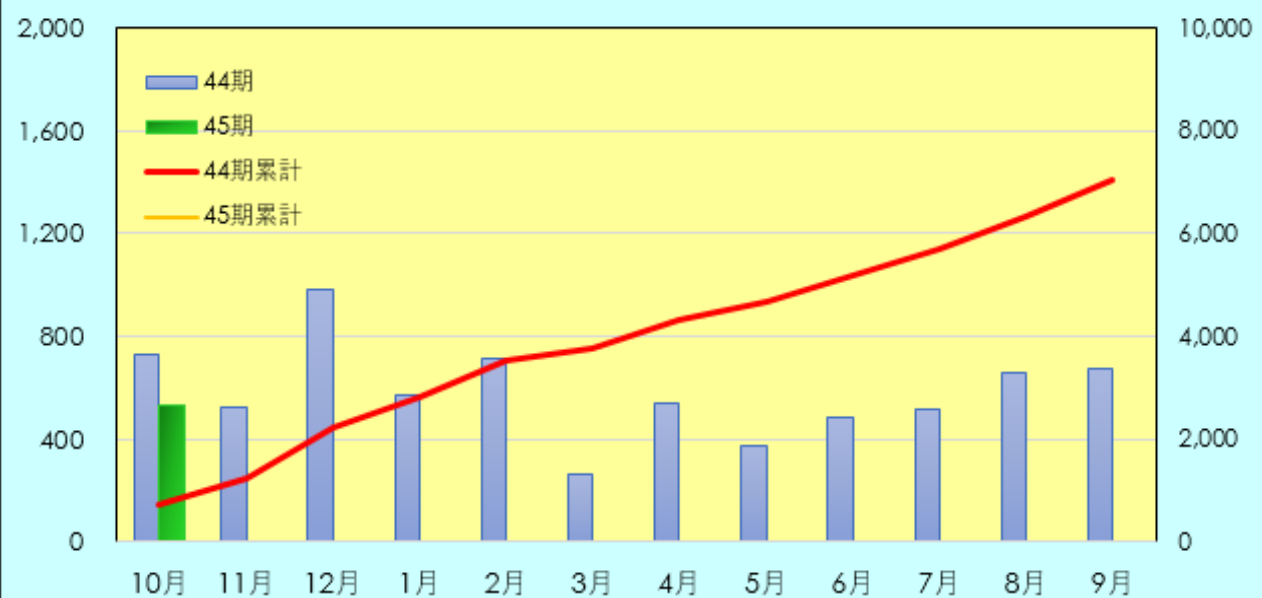
累計/棒折れ線(kwh)



電力使用量 (SSD/関西営業所)

月次/棒グラフ(kwh)

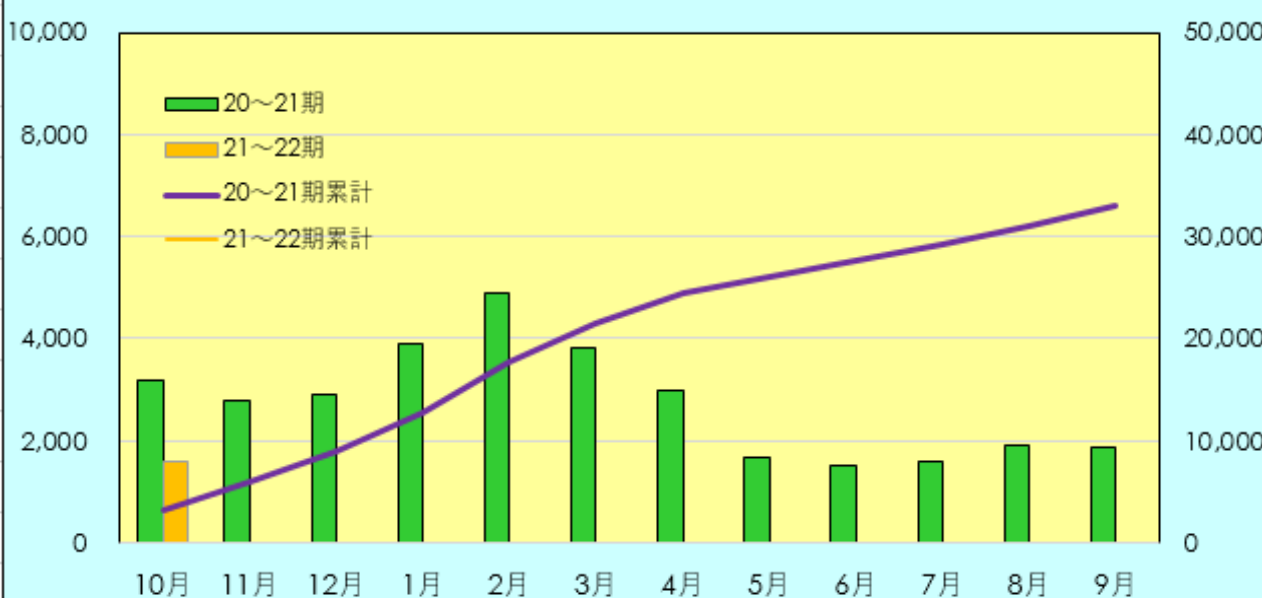
累計/棒折れ線(kwh)



電力使用量 (SKW/朝日工場)

月次/棒グラフ(kwh)

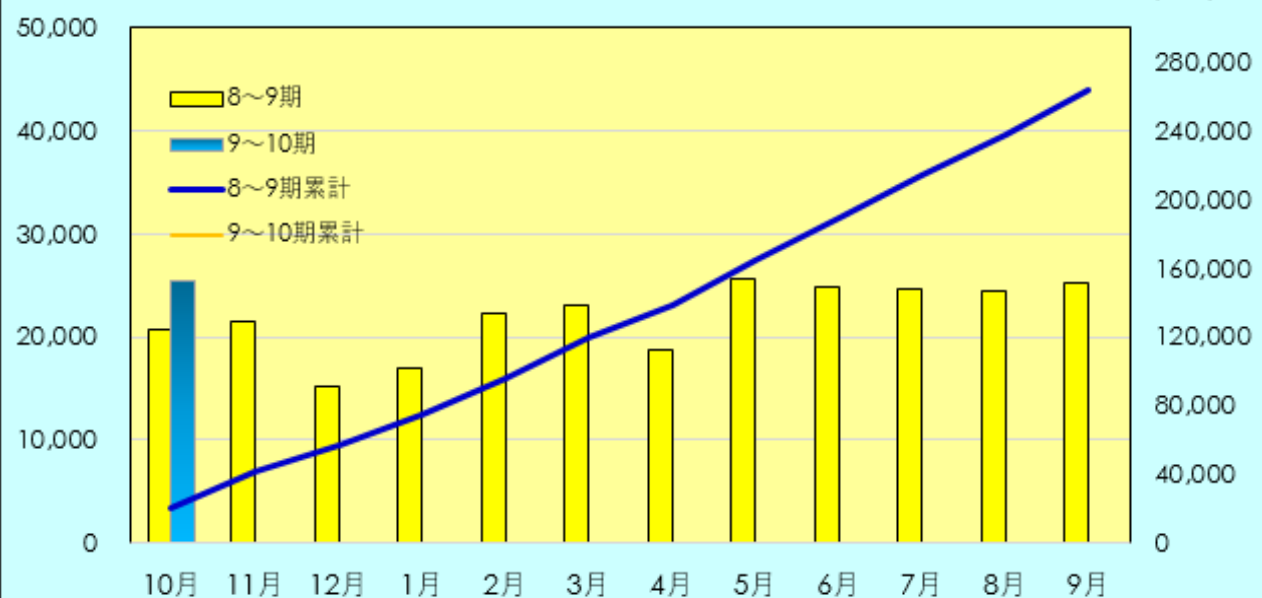
累計/棒折れ線(kwh)



電力使用量 (CSI)

月次/棒グラフ(kwh)

累計/棒折れ線(kwh)



ESG Report (地域貢献とワーク・ライフ・バランス)

今月のTOPICS

●SANSHIN大学ビジネス実務講座「VE研修」開講

2022年11月9日に、グリーンマネジメント株式会社 代表取締役 高橋淳一様を講師にお招きし、VE研修(オンライン形式)を実施しました。

研修では、VEの基本的な考え方、VEの誕生について、VEの定義や基本原則等について分かりやすくご解説頂きました。また、サンシングループや他社のVE事例にも触れ、具体的に理解を深めることができました。今後の業務に活用してまいります。

講義後も活発な意見交換が行われ、大変活気溢れる講座となりました。

今後も全社員の継続的なレベルアップと人財育成を図るべく

SANSHIN大学では多種多様な講座を開講予定です。



活動報告

- ①地域貢献活動
- ②ワーク・ライフ・バランスへの取り組み
- ③人財育成への取り組み

地域貢献活動

- 地域雇用の促進
- 地域清掃の実施（10月参加人数：延べ3名）
- ハンディキャップのある方々の自立を目指すお弁当宅配センターから会議用お弁当を購入
- インターンシップ実習生の受け入れ（日本、中国、マレーシア）
- 近隣の小中学校へ新聞を寄贈
- 企業メセナとして日本のワインや日本酒を購入（ミタスライフ）
- 家庭犬1年生から学べる「ドッグライフアカデミー」を創設。
アカデミーを通して、社会貢献できる人と犬の育成を目指しています。
- 学習塾において生徒のコーチング+学習支援事業を実施（ミタスライフ）

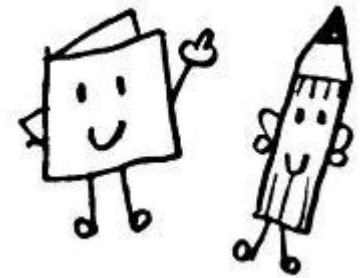


ワーク・ライフ・バランスへの取り組み

- 育児休業中も休業前のほぼ半額の給与支給。行政と併せてほぼ全額受給可能（累計実績5名）
- 育児短時間勤務中も、通常と同額の給与支給（累計実績6名）
- こども手当の支給（中学生未満）
- ご家族の急な病気やご家庭の事情、社会情勢に合わせて、在宅勤務又はテレワークが可能
- リフレッシュ勤務制度（勤務間インターバル制度）の導入
- 時間単位の有給休暇取得制度の導入
- 年2回実施の人事考課にて、ご両親または20歳以下の子供を扶養している社員への加点実施
- 勤続表彰者への特別休暇の付与及び記念品を贈呈
- 毎年1回、全社員対象に健康診断を会社負担で実施
- 東京都の「感染症対応力向上PJT」に参加し、コースⅠ（感染症理解のための従業者研修）達成（2016年1月）、コースⅡ（感染症BCPの策定）達成（2017年12月）⇒2020年8月「感染症BCP」を新型コロナウイルス感染予防対策も含め更新！
- 全国健康保険協会東京支部より「健康優良企業・銀の認定証」取得（2022年5月更新）⇒6年連続！
- 経済産業省・日本健康会議より「健康経営優良法人2021（中小規模法人部門）」の認定取得（2017年～2021年）
- 東京都より「スポーツ推進企業」、スポーツ庁より「スポーツエールカンパニー」の認定4年連続取得（2017年～2020年）
- メンタルヘルスケアの一環として従業員用オンライン相談フォームを設置（海外拠点からも投稿可能、匿名でも投稿可能、秘密厳守）

人財育成への取り組み

- ▶ 社内にサンシン大学（SSU）を設置。経営・法務・税務・情報セキュリティ・新製品紹介・ビジネス英会話・健康促進法・eラーニング等の講義を開講（World-wideでSkype配信実施。就業時間内に開講。会社が費用負担）
- ▶ サンシングループ石井代表と選抜メンバーによる「CSV研究会」を開催中
- ▶ サンシン大学への出席実績は、年2回の人事考課で加点対象
- ▶ 自己啓発支援制度により、MBA取得や資格取得を積極的に支援（毎年3～4名利用）
- ▶ 簿記、ビジネス実務法務検定、TOEIC・英検の取得により職能給UP
- ▶ 他社での技術研修、経理実務研修等を実施
- ▶ 年に1度、好業績を残した社員に対して社員表彰を実施
- ▶ “情報共有システム（Intelligence Shared Systems）”の活用により、日々PDCAP’を全社で共有し、TOP MANAGEMENTとの直接のコミュニケーションが可能
- ▶ 一般社団法人ICTマネジメント研究会による「学生懸賞論文」の実施（毎年開催）



サンシングループの経営理念とCSR

We love our customers,
We're loved by our customers,
Always be a Virtuous Merchant
to contribute to Cultures and
Civilizations around the World.

サンシングループのCSRは、経営理念を全役員・全従業員が共有し、100%のコンプライアンスを大前提として、企業活動の中で経営理念を実践していくことです。

コンプライアンスの基礎となる品質マネジメント・マニュアル及び環境マネジメント・マニュアルを策定・導入し、サステナブルな企業として永続的に電機業界及び社会の発展に貢献して参ります。また、ステイクホルダーとの信頼関係の構築を通して、社会の公器として企業の社会的責任（CSR）を果たして参ります。

経営戦略体系と管理会計のかかわり



サンシングループの社会的責任

サンシングループは、企業はステイクホルダーをはじめとする社会全体と共存して繁栄し、社会的責務を伴う存在であると考え、以下の取組みを実施しています。

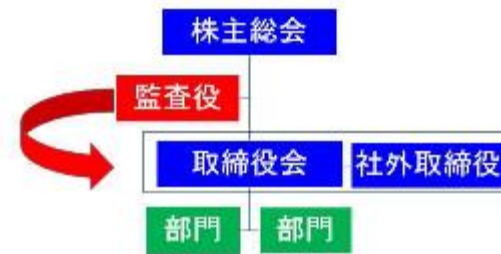
■ コーポレートガバナンス

経営者がコンプライアンスに準じた行動をしているか、コーポレートガバナンスにより、内部の業務監査を行っています。

■ CSR及び環境経営（ESG）

サンシングループではCSRに環境経営、品質保証、危機管理などの要素を含め、ホームページで活動内容を発信しています。特に環境経営はISOなどの環境マネジメントシステム（EMS）と連携した活動を実施しています。

コーポレートガバナンスと機関の役割



出所：石井 宏宗[2019]『わかりやすい！社長が教える経営学』創成社、13ページ。

CSRの基本的要素



CSRの新たな要素



出所：石井 宏宗[2019]『わかりやすい！社長が教える経営学』創成社、14-16ページ。

サンシングループの企業行動基準

サンシングループの倫理法令遵守企業行動基準は、「経営理念」を実践するために、企業倫理とコンプライアンスの観点から、基本的な姿勢を以下の通り定めています。

1. 私たちは、常に社会人としての自覚を持ち、高い倫理観に基づき、社会的良識に従って行動します。
2. 私たちは、あらゆる企業活動の場面において、関係法令および社内規定はもとより、利害関係者と取り交わした契約や約束を常に遵守し、全ての企業活動が正常な商慣習と企業倫理に適合したものになるよう努めます。
3. 私たちは、あらゆる企業活動の場面において、全ての人の基本的人権と個性を尊重し、オープンなコミュニケーションに努めます。
4. 私たちは、全ての利害関係者に対し、誠実に接するとともに、公平・公正かつ透明な関係を維持し、フェアな取引を行います。
5. 私たちは、会社の正当な利益に反する行為や会社の信用・名誉を損ねる行為を一切行いません。

サンシングループのマネジメント・コントロール・システムズ

サンシングループは、経営戦略達成のため、「アカウントティング・システム（財務的：定量的管理）」と「コントロール・システム（非財務的：定性的管理）」という2つのシステムから成るマネジメント・コントロール・システムズを導入しています。

このマネジメント・コントロール・システムズの「コントロール・システム」の基軸となるものとして、当グループ独自の品質マネジメント・マニュアルがあります。この品質マネジメント・マニュアルに基づき、ISO9000シリーズに準拠した品質方針、および環境マネジメント・マニュアルに基づき、ISO14001やエコステージなどの環境方針を策定しています。これらの方針に従い、コンプライアンス・品質・環境・地域貢献・人財育成等のCSR活動に努めています。



サンシングループのマネジメント・コントロール・システムズ

サンシングループでは、形式知化された業務をルール化し、業務フローと業務マニュアルを策定しています。

■ マネジメント・システム

マネジメント・システムにより業務を標準化し、企業活動に安定した品質をもたらしています。

■ 5W2HとPDCA→P' サイクル

PDCA→P' サイクルは計画策定のPlan、計画を実行するDo、計画と実行の差異を評価するCheck、評価から修正と改善を行い次のPlan(P')につなげるActionから構成されます。サンシングループでは情報共有システムなどを活用して、5W2Hを明示し、プロセスの進捗を可視化/共有しています。

マネジメントシステムの基本構成



マネジメントシステムのレビュー



出所：石井 宏宗[2019]『わかりやすい！社長が教える経営学』創成社、48ページ。

ビジネスの5W2H



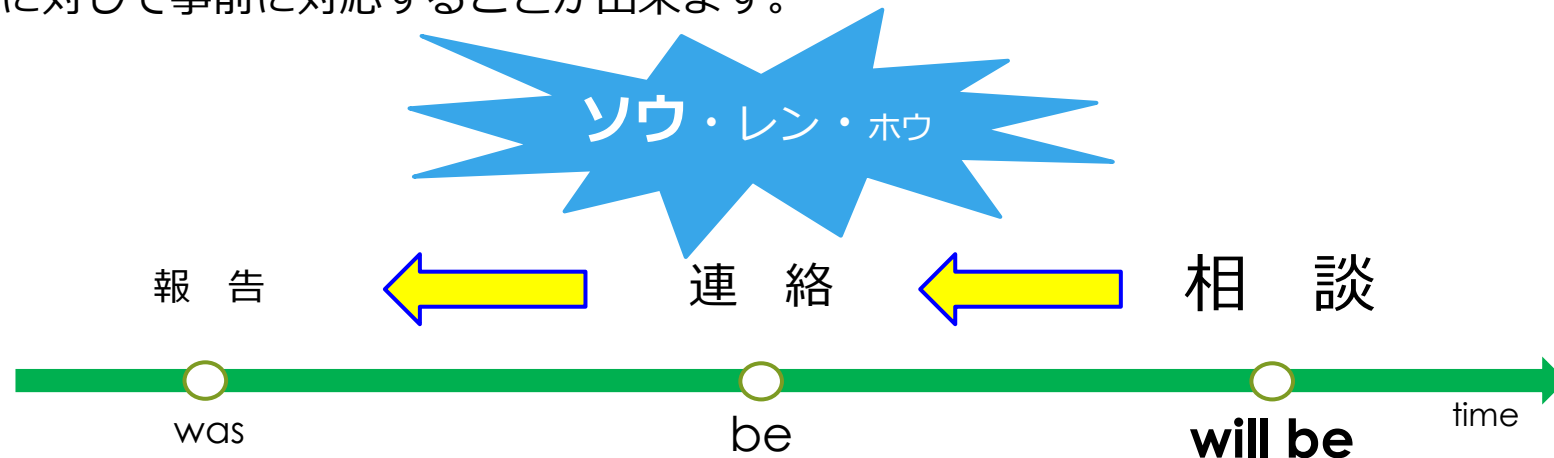
PDCA→P' サイクルの概念



出所：石井 宏宗[2019]『わかりやすい！社長が教える経営学』創成社、42ページ。

未来形から問題を解決するソウレンホウ

サンシングループでは悪い問題は過去形になる前に潰すことが重要と考え、一般的に言われるハウレンソウ（報告・連絡・相談）ではなく、ソウレンホウ（相談・連絡・報告）を励行しています。ソウレンホウにより、過去形（報告）ではなく未来形（相談）と現在形（連絡）の情報を共有し、予測される問題に対して事前に対応することが出来ます。



出所：石井 宏宗[2011]『経営とは生きること -企業家に求められる3つの視点-』税務経理協会、166ページ。



編集
後記

SSD, 営業管理課 Y.Y.

今回のワールドカップでもきれいに片付けられた日本代表のロッカールームや同代表サポーターによるスタジアムのゴミ拾いなどが話題になっています。行政や企業の活動だけではなく、こういった個人個人の行いも地球環境保全に役立ちますので、普段から5Sを心がけて地球を汚さないように、次の世代に託していきましょう。